

地域子育て世代への健康教育プロジェクト ～認定こども園や地域住民との協働～

黄波戸航¹, 西田千夏¹, 塚越千尋², 古澤朗子¹, 阿部宏史¹, 阪上奈巳³, 吉川美和子¹

¹ 藍野大学 医療保健学部 看護学科

² 藍野大学 医療保健学部 作業療法学科

³ 藍野大学 医療保健学部 理学療法学科

報告概要

実習関連施設である山善福社会さんすい学園と協働し、太田地区在住の乳幼児の保護者向けの健康教室「こどもの健やかな発育のためのあそび・運動・健康の実践講座」を11月、1月、2月の計3回開催した。参加者人数は計49名（保護者30名、付き添い子ども19名）であり、アンケート結果から今後の子育てに活かせる、講義に満足しているの結果が出た。また、今後聞いてみたいテーマとして、食育や睡眠環境、姿勢などの意見があり、継続して開催していく必要性も確認できた。

1. はじめに

認定こども園とは、都道府県等からの認可・認定を受け、教育・保育を一体的に行う施設であり、幼稚園と保育所の両方の特徴を併せ持っている。その機能として、就学前の子どもを保護者が働いている・いないにかかわらず受け入れて、教育と保育を一体的に行う、子育て相談や親子の集いの場の提供等地域における子育ての支援を行うというものがある[1]。そのため、多くの認定こども園では、保育士や調理師といった専門職と共に、看護師が常駐しており、本学看護学科でも、3年次に開講している小児看護学実習の一環として、近隣地域にある認定こども園での臨地実習を行っている。

認定こども園といった保育施設で働く看護師の役割として、園内での役割とともに関連機関との連携、さらには地域の子育て相談など幅広い保健活動が求められている[2]。藍野大学周辺の地域でも認定こども園が複数あり、その一部から園に通う子どもの養育者の中に、看護師や理学療法士といった専門職から子育て支援や健康教育を受けたいというニーズを持っている方がいるという情報があった。そこで今回、認定こども園の看護師や地域の子育て世代に関わる人々とともに、地域に住む子どもや養育者を対象とした子育て健康教室プロジェクトを企画する。健康教育の具体的な内容は、認定こども園の看護師らと共に、子どもや養育者のニーズを抽出して決め、本学の看護学科、理学療法学科、作業療法学科の教員と連携して、約半年で計3回程度行っていくこととする。このプロジェクトが実現することで、藍野大学近隣の子どもやその養育者の健康増

進につなげることができると考える。

2. プロジェクト目的（あるいは目標）

地域住民、認定こども園などのスタッフ、本学教員、学生との交流並びに地域貢献、地域に住む子育て世代の養育者への健康教育による支援

3. 実施内容

1) 協働するこども園との調整

実習関連施設である山善福社会さんすい学園の看護師と協働し、健康教室の企画を行った。結果、2024年度内に山善福社会さんすい学園にて、計3回1回1時間程度の実践を盛り込んだ健康教室を開催することとなった。

2) 健康教室のテーマと講師の選定

さんすい学園に通われている保護者などから聞き取り調査を行い「遊び」、「靴選び」、「乳児との生活」の3つのテーマを選定した。プロジェクトメンバー内で協議し、藍野大学の教員の中から講義担当者を依頼した。

4. 結果

1) 健康教室の開催について

健康教室の日程として、第1回を2024年11月16日(土)に、第2回を2025年1月11日(土)に、第3回を2025年2月15日(土)に実施した。詳細な講義テーマ、講義担当者について表1を参照。また運営や会場準備、受付には本学教員以外にもさんすい学園のスタッフ、太田地区福祉委員も参加した。

表.1 健康教室の日程とテーマ

テーマ	講師担当者
第1回 遊びながら体と手先をきたえよう！	尾藤祥子(作業療法学科)
第2回 子どもの足の発達～靴選びのポイント～	阪上奈巳(理学療法学科)
第3回 保健師と一緒に赤ちゃんとの暮らしを考えよう	古澤朗子 阿部宏史 吉川美和子 (看護学科公衆衛生看護学領域)

2) 参加書の属性

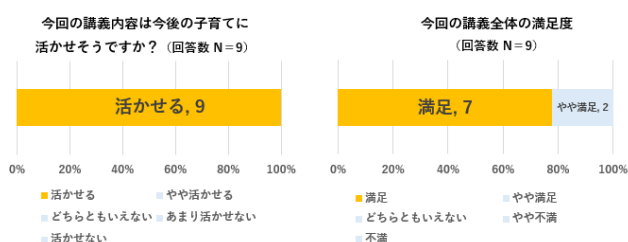
3 回の参加者の総数についてあげる。参加者数は 30 名。うち母親 18 名、父親が 8 名、その他が 4 名であった。平均年齢は 34.7 歳（範囲:29～48 歳、中央値:34 歳）であった（ただし、年齢の申し出がなかった 3 名は除く）。また現在認定こども園などに通園していない子どもの保護者も多くいた。

3) アンケート結果

それぞれの回のアンケート結果を図と併せて上げる。

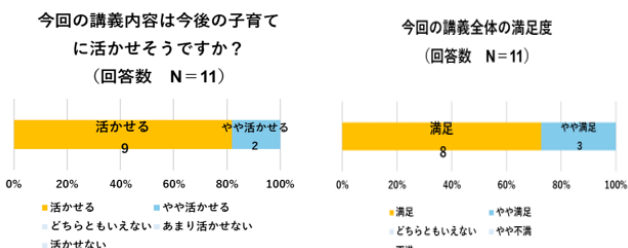
第 1 回「遊びながら体と手先をきたえよう！」

参加者数 9 名、回答数 9 件（回収率 100%）、回答者の年齢：平均 38.9 歳（範囲：30～62 歳 中央値：33 歳）。



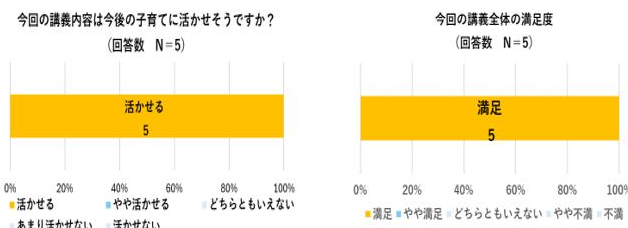
第 2 回「子どもの足の発達～靴選びのポイント～」

参加者数 15 名、回答数 11 件（回収率 73.3%）、回答者の年齢：平均 36.3 歳（範囲：29～47 歳 中央値：35 歳）。



第 3 回「保健師と一緒に赤ちゃんとの暮らしを考えよう」

参加者数 6 名、アンケート回収数 5 部（回収率 83.3%）、回答者の年齢（未記入 1 件あり）：平均 37.0 歳（範囲：29～48 歳 中央値：35.5 歳）。



各回の自由記載欄より考えられるテーマのニーズについて、子どもとの遊びに関わる内容 3 件（遊び方、玩具、知育）、子どもの発達に関わる内容 2 件（いやいや期、発育発達について）、運動や姿勢について 3 件（動作の習得、自宅でできる簡単な運動など）、食育について 2 件、睡眠について 2 件などがみられた。

5. 今後の展望

今回のプロジェクトにより、計 3 回の乳幼児の保護者を対象とした健康教室を開催することができた。

参加数は計 30 名（会場のスペースの加減から付き添いの子どもを含めて定員を 1 回 40 名としていた）にのぼり、またアンケート結果からも講義内容が今後の子育てに活かすことができ、満足度も高かったことが伺える。プロジェクトの目的も達成できたと考えられる。しかし、今回は本学学生の参加を促せなかったことや、アンケート結果よりまだまだテーマとなりうるニーズが判明したことから、今後も、健康教室を継続していく必要性も見られた。

最後に本プロジェクトにご賛同いただいた本学教員、ご協働いただいたさんすい学園や太田地区の福祉委員の皆さまに厚く御礼を申し上げます。

- [1] 内閣府. 認定こども園制度の概要. https://www.cao.go.jp/bunken-suishin/kaigi/doc/senmon138shi02_8.pdf(2024 年 4 月 12 日アクセス)
- [2] 一般社団法人全国保育園保健師看護師連絡会. 求められる看護職をめざして. <https://www.hoiku-kango.jp/>(2024 年 4 月 12 日アクセス)

健康教室開催時の様子

